

すごいみかん

北九州市立吉田小学校 五年 箴島 紀々子

「甘い果物といえば何？」と聞かれて、私が一番に思いうかべるのは、みかんです。

私が小さいころ、果物好きの亡くなったおじいちゃんが、こたつで私によくみかんの皮をむいて、私が食べやすいように、白いすじを取って食べさせてくれました。それが甘くてとてもおいしかったのを覚えています。でも大きくなって、自分でみかんを食べるようにになると、白いすじを取らずに食べるようになりました。あの白いすじは「アルベド」と言い、食物せんいやビタミンが、たくさん含まれていると知ったからです。

ある日、魚料理をしていたお母さんが、私の食べたみかんの皮で、手を洗っていました。私が「何してるの？」と聞くと、お母さんは「魚の臭い取りになるんだよ」と教えてくれました。それから、みかんについて知りたくなりました。みかんの皮は、油性ペンの落書きに、こすり付けるとよこれが落ちたり、皮靴をみかんの皮の白い方でよこれを落とし、黄色い方でみがき上げることができました。調べてみると、みかんの皮はごみにはならず、色々な事に使えることに、おどろきました。そしてその調べた中でも、私が一番気になったことは、みかんの皮を干したものをお風呂に入れると、体がとても温まるということです。だから、今年の冬はみかんのお風呂に入ってみたいと思います。

今まで、みかんの思い出といえば、亡くなったおじいちゃんとたくさん食べた「甘いみかん」でしたが、今は、みかんの色々な事を知って「すごいみかん」に変わりました。

果物が好きだった、亡くなったおじいちゃんに「すごいみかん」をお供えして、教えてあげたいです。そして今度は、また別の色々な果物についても知りたいと思いました。きっと果物には、甘いだけじゃなく、まだまだ知らない秘密がある気がします。